

公益財団法人 放送文化基金
2023年度 事業計画
(自 2023年4月1日 ~ 至 2024年3月31日)

2023年度は放送文化基金が設立されて50周年にあたることから、基幹事業である「1助成、2表彰、3支援活動」に加え、50周年記念事業を展開する。

- 1 助成事業 予算額 6,576万円 (積立金の取崩額2,000万円を含む)
助成金の規模は従来と同額の総額6,000万円(うち2,000万円は助成費用準備資金の取崩しによる)で放送の周辺領域を含む、より広い分野での放送技術に関する研究・開発、ならびに人文・社会科学的な調査・研究、および文化的な事業への助成を実施する。また、助成応募件数の増加を図るため、学術誌に広告を掲載するなど、助成事業の周知・宣伝活動を強化する。
助成対象を決定した際は、対象者とテーマを記者発表し、ホームページ(英語表記を含む)で公表する。
3月の「助成金贈呈式」では、近年助成したプロジェクトの中から、視聴者の関心の高いテーマや時宜を得たテーマをとりあげ、研究報告会を行う。

- 2 表彰事業 予算額 5,361万円
視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組・配信コンテンツ、放送文化および放送技術に関する著しい貢献に対し、表彰を行う。

(1)放送文化基金賞

全国の民放、NHK、番組制作会社に加え、今回より新たに動画配信会社も対象として、広く応募を募り、表彰する。

「放送文化基金賞」の決定については、その受賞作品、受賞者、選考理由等を記者発表し、ホームページ(英語表記を含む)で公表する。

○前年度に放送・配信されたドキュメンタリー部門、ドラマ部門、エンターテインメント部門、ラジオ部門の4分野の番組・コンテンツを対象とする。
番組・配信コンテンツの表彰(最優秀賞,優秀賞,奨励賞) 計 16本以内
個人への賞(演技賞,企画賞,演出賞等) 計 6件以内

○個人・グループ 部門

次の2分野で主に前年度に顕著な業績を挙げた個人またはグループを対象とする。

放送文化・・・放送界に新生面を拓くなど放送文化の発展・向上に貢献した個人またはグループ	4件以内
放送技術・・・技術の開発や放送現場での工夫・考案で効果を挙げた個人またはグループ	4件以内

(2)他の賞への参加

国際コンクールである「ABU賞」(主催 アジア太平洋放送連合)、「日本賞」(主催 NHK)、「創作テレビ・ラジオドラマ大賞」(主催 日本放送作家協会・NHK)へ参加し、優れた番組や企画、脚本にそれぞれ賞金を贈呈する。

- ◎ABU賞・・・優れた番組の表彰(ABU賞全体へのスポンサーとして)
- ◎日本賞・・・教育に役立つテレビ番組の優れた企画の表彰
- ◎創作テレビ・ラジオドラマ大賞・・・優れた創作脚本の表彰

3 支援活動事業 (制作者フォーラム) 予算額 1,076万円

放送に携わる若手制作者の人材育成を支援する施策として、地域の制作者が組織の枠を越えて交流を図る制作者フォーラムを各地区で開催する。

今年度は実施経費の増額を図り、北日本(山形)、愛知・岐阜・三重(名古屋)、九州・沖縄(福岡)の3地区での開催を見込んでいる。

また東京で全国制作者フォーラムを開催する。

4 広報 予算額 574万円

事業の活動状況を広く紹介するための広報誌(放送文化基金報「HBF」)第95号(秋号)を9月に刊行し配布する。

また、ホームページを通じた事業活動の紹介に加えて、助成事業への積極的な応募の促進を図るため、メディア等を活用した周知・宣伝活動に取り組む。

5 設立50周年記念事業 予算額 2,000万円 (全額積立金の取崩しによる)

設立50周年記念シンポジウム「AIとジャーナリズム(仮)」(上智大学との共催)を開催するほか、当該シンポジウムの記事と放送文化基金の歩みを集めた「HBF報」設立50周年特集号を刊行し配布する。

また助成や放送文化基金賞等のシステム整備を実施する。